

2026 年 3 月 19 日

高校生向け脱炭素教育プログラム

神奈川県環境農政局脱炭素戦略本部室

目 次

1	脱炭素学習に取り組むために	2
	1) 脱炭素学習とは	
	2) 脱炭素学習のねらい	
	3) このプログラムの構成と使い方	
	4) 学習における考え方やスタンス	
2	脱炭素教育プログラムの基本的枠組と活用方法	4
	① 入門編	
	② 知識習得編	
	③ 実践学習編	
	④ 解決策研究編	
3	高校生向け脱炭素教育 モデルプログラム	7
	1) 入門編＋実践学習編	
	2) 知識習得編＋解決策研究編	
	3) 実施校での実践事例	
別添	参考資料（講義資料・ワークシートなど）	
	① 入門編資料	
	② 知識習得編資料	
	③ 実践学習編資料	

1 脱炭素学習に取り組むために

1) 脱炭素学習とは

近年、人間活動に起因する地球温暖化により、熱中症搬送者の増加や、強力な台風や集中的な豪雨などによる自然災害が甚大化しています。このまま地球温暖化が進行すると、更に深刻な影響が広がるとされており、将来世代の「いのち」を脅かすおそれがあります。

こうした状況に歯止めをかけるため、世界は地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする「脱炭素※」の取組を進める約束をしました。神奈川県でも「2050年脱炭素社会の実現」を目指すことを表明し、さまざまな取組を進めているところです。

脱炭素社会の構築には、エネルギーの転換だけでなく、産業のあり方、交通のあり方、住居や建物のあり方、食や消費のあり方等、実に広範で多くの分野での変革が必要となります。しかも進んでいく道に正解があるとは限らず、多様な選択肢の中から答えを選び、実践していく必要があります。

脱炭素学習は、自分たちにどのようなライフスタイルの転換が必要かを学ぶだけでなく、地域社会において企業や地域組織の取組みや行政の施策との連携が必要になるということも視野に入れながら、自分たちができることは何か、生徒自身が具体的に考えてみる学びの機会です。

10年後、社会の主役となる高校生には、脱炭素だけでなくさまざまな社会課題について、他人ごとではなく、自分にかかわる問題として強い関心を持ち、自分たちで解決策を見出していくプロセスに参加し、解決への取組に主体的に関わっていく態度と能力を身に付け成長することが期待されます。本脱炭素学習はそのようなコンピテンシーを育むことを狙いとして構成していますので、ぜひチャレンジしてみてください。

※温室効果ガスの排出量から吸収量を差し引いて、合計が実質的にゼロとなっている状況

2) 脱炭素学習のねらい

本プログラムは、次世代を担う高校生が、脱炭素に関する課題意識の醸成を通じて、高校生が脱炭素社会づくりを自分ごとと捉え、課題解決に向けて取り組むことで具体的な行動に移すことを目指しています。具体的には、次の3点をねらいとしています。

- ① 気候変動や脱炭素社会づくりに関する基礎的な知識を習得し、課題意識を形成する（知識及び技能）
- ② 課題解決に向けて情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする（思考力、判断力、表現力）
- ③ 主体的・協働的に取り組みながら、よりよい社会を実現しようとする態度を養う（学びに向かう力、人間性等）

3) このプログラムの構成と使い方

本プログラムは神奈川県「若年者・地域向け脱炭素普及啓発業務」の一環として、2023～2025年度、異なるタイプののべ12の県立高校で実施した脱炭素学習プログラムをもとに作成しました。プログラムは、①気候変動問題の全体像をゲーム形式で学ぶ入門編、②より詳しく

脱炭素への取り組み方を座学で学ぶ知識習得編、③脱炭素を自分ごととしてとらえ行動変容の意識づけとなる実践学習編、④主体的な脱炭素アクションを自ら考える解決策研究編 の4つのモジュールで構成されています。

実施校は、実施可能な時間数（4～12 時限程度）とそれに見合うモジュールをプログラムから選択し、組み立て、実施することができます。なお、すべてのモジュールは、生徒のアクティブな学びを引き出す工夫を行っています。

本プログラムは「総合的な探究の時間」のほか、地理総合、家庭科の「生活探究」、環境科学、科学と人間生活などの教科でも実施されました。複数の教科による教科連携なども考えられます。

学校での時間枠や生徒の関心に応じていろいろな組み立てや工夫が可能ですので、ぜひ脱炭素学習を実施する際の参考にしてください。

4) 学習における考え方やスタンス

i) 生徒同士の対話と学びあいを通じて正解のない問いにチャレンジする

2050 年脱炭素社会の実現に向けたアプローチはひとつではなく、正解を競う問題でもありません。したがって、学習プロセスでは、意見や考え方の多様性を尊重し、自分との意見の違いを見つめながら正解のない問いにどう立ち向かえばよいか対話的に学ぶことを目指します。

＜具体的には・・・＞

入門編のアクティビティ「気候変動のミステリー」では気候変動問題の原因や影響、対策など様々なカードの関係性を考え表現することに取り組めますが、そのつなぎ方の正解は一つではなく、多様な表現が可能となっています。グループでその課題に取り組むことで、①知識・技能や③主体的に取り組む力を育みます。

また、解決策検討編では、脱炭素社会をつくるために自分たちができることをグループで検討しますが、そのプロセスで②思考力、判断力、表現力と③主体的に取り組む力を育みます。

ii) 自分ごと化につなげる

次世代を担う高校生が、自らの暮らしの脱炭素化や脱炭素社会づくりを他人ごとではなく自分ごととしてとらえ、課題解決に向けてみんなで考え取り組むことで、具体的な行動変容につなげていくことを目指します。

＜具体的には・・・＞

実践学習編の「脱炭素ライフスタイルにチャレンジ」では、自らの暮らしに関するCO₂（ライフスタイル・カーボンフットプリント）を量り、その削減方法を検討したり、脱炭素社会づくりにつながるアクションをみんなができるようになるにはどうすればよいかを考えたりします。また、解決策検討編のはじめには、地域社会におけるCO₂削減の取り組みを実際の企業から学び場を設けることで、脱炭素社会づくりを身近に感じ、②思考力、判断力、表現力や③主体的に取り組む力を育みます。

2 脱炭素教育プログラムの構成要素

脱炭素教育プログラムでは、各校の目的や実施可能な時間数にあわせてモジュールを選び、組み立て、実施していただくことを想定しています。本項では、本プログラムを構成する4つのモジュール、①入門編、②知識習得編、③実践学習編、④解決策研究編 について紹介します。

①入門編 「気候変動のミステリー」

- ・目 標：気候変動問題と脱炭素の取り組みに関心を持つようになるとともに、批判的思考、システム思考、協働的コンピテンシーを育む。
- ・所要時間：2～3 時限程度
- ・使用教材：「気候変動のミステリー」カード（24 枚）
進行及び解説 PPT
- ・活動内容：「気候変動のミステリー」
気候変動の影響や原因、対策（緩和と適応）等に関する 24 枚のカードについて、そのつながりを考えるワークをグループで実施し、発表します。発表からの学びあいや補足説明、追加ワークを行い、緩和策への理解を深めます。

※ミステリーはイギリスの地理学による思考プロジェクトにおいて、デービッド・リート氏らにより構造主義学習理論に基づいて開発された学習手法。この手法をもとに気候変動問題の複雑性を主体的に学ぶツールとして開発された。

※このプログラムは、「高橋・歌川(2023) 地域で効果的な温暖化対策を考えるためのワークショップ指導者向けマニュアル本編・付録編」を参考に、2024～25 年度神奈川県立高校のべ 7 校で実施した内容をもとに作成した。

※ミステリーカードは 24 枚の基本構成に加え、差し替え可能なカードが用意されている。プログラムの全体構成における本アクティビティのねらいをふまえ、カードのつながりを考慮しながら再構成することを推奨する。

<ミステリーカードの例>

商品のパッケージが変わっている。
なぜこんな変化が起きているのでしょうか？

洗剤、食品等のパッケージの変化



本画像はTOPPAN社のHPより転載

近頃スーパーでは、洗剤やシャンプーなど詰め替え用のパッケージが増えてきている。
環境にやさしい商品が増えている。
うだ。
お菓子
パッケージ
た。

お弁当に入れることができる食材が変わった。
なぜこんなことが起きているのでしょうか？



待ちに待った体育祭。田中さんは、楽しみにしていたお弁当を開けて、ショックを受けた。

おにぎりに、お弁当が乗っていた。

近年、日本各地で豪雨災害が頻発している。
なぜこんなことが起きているのでしょうか？

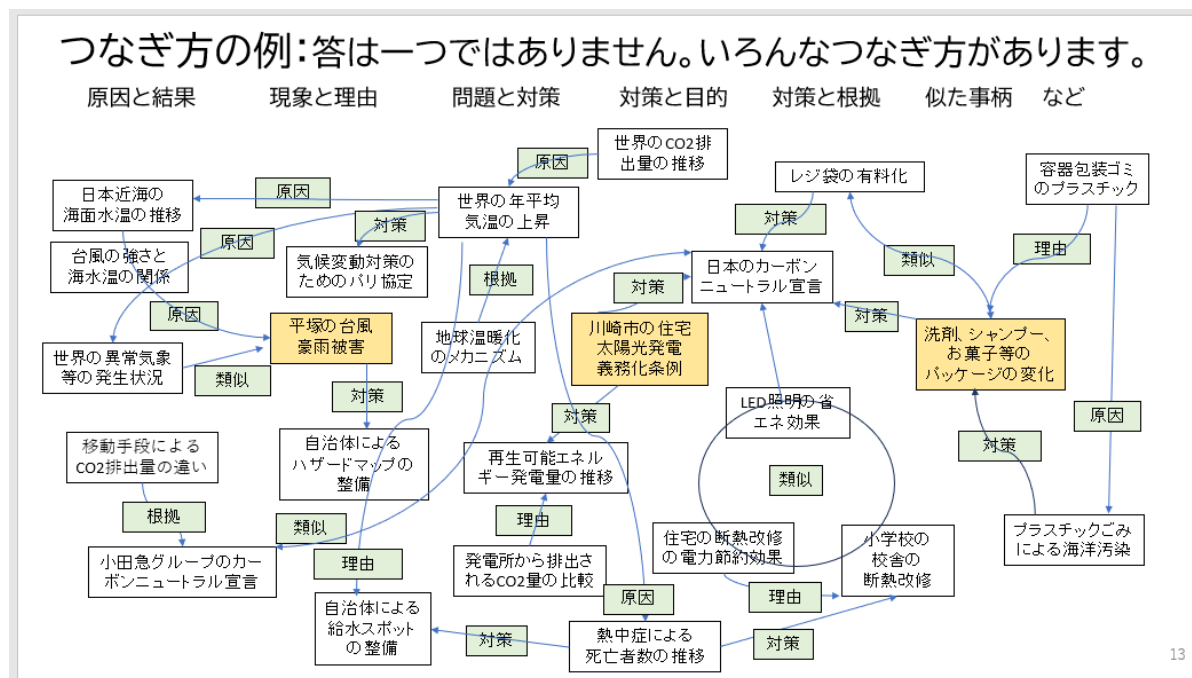
豪雨で増水した川



神奈川県では、2024年8月末、台風10号に伴う記録的な豪雨が降り、9月2日朝までに小田原市で537ミリ、海老名市で450ミリ、横浜市中区で200ミリの雨量となった。
県内各地で、河川氾濫、土砂崩れ、家屋浸水などが発生した。

(2024年9月2日午前10時時点／
神奈川県災害情報ポータルより)

＜つなぎ方の例＞



13

②知識習得編 オンデマンド教材の活用

- ・目標：気候変動問題の仕組みと、脱炭素社会を形成するために必要な知識を習得する。
- ・所要時間：2～4 時限
- ・使用教材：「気候変動問題を知る」「カーボンニュートラル社会を拓く 1～3」各 15 分程度
- ・活動内容：オンデマンド教材（もしくはスライド）による講義と学習
 オンデマンド教材による講義を受け、ワークシートに要点を書き込むことで、知識を整理します。また、大切に思ったこと、もっと知りたいと思ったことを小グループで話し合ったり、スライドの最後にある問に取り組むことで学習を深めます。気候変動問題や脱炭素が専門ではない先生方にも実施が可能となるようにスライド（パワーポイント）と音声を入力したオンデマンド教材を用意します。生徒の学びのスピードに合わせて、教材を視聴する時間と教材からの気づき等について考えたり話し合ったりする時間を組み合わせて進めていただきます。

＜教材スライドの例＞

脱炭素社会を目指して

温室効果ガスの排出を実質ゼロにしないと気候変動は止められない
 科学的な研究結果で、2℃目標を達成するためには21世紀後半までにCO₂排出量を実質ゼロ、1.5℃目標を達成するためには2050年に実質ゼロにする必要がある、とされている

脱炭素社会(=カーボンニュートラル社会)とは、
 温室効果ガス、特にCO₂の排出量と吸収量を均衡させた社会

出典：環境省脱炭素ポータル https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/

②人・物の移動・輸送で消費されるエネルギーの効率化

移動が少なくても
 便利なまち
 =コンパクト・シティ

富士市の取り組み

富士ライトレール（LRT） シェアサイクル 出典：富士市HP

③実践学習編 「脱炭素ライフスタイルにチャレンジ」

- ・目 標：世界の気温上昇を 1.5℃に抑えるための脱炭素ライフスタイルに関して、自分の暮らしとつなげて学ぶことで、脱炭素に関心を持つようになるとともに、自分や家族の暮らしと、暮らしを取り巻く学校や地域社会の変化に向けて役割を見直さきっかけにする。
- ・所要時間：2 時限
- ・使用教材：「脱炭素ライフスタイルにチャレンジ」（説明スライド）
生徒が自身の CO₂ 排出量を把握する「じぶんごとブラネット」
<https://www.jibungoto-planet.jp/>
- ・活動内容：「脱炭素ライフスタイル」
温室効果ガスと私たちの暮らしの関係やカーボンフットプリントの考え方について、講義と実態調査（自身の CO₂ 排出量測定）を通して学びます。そのうえで、カーボンフットプリントを減らす行動のいくつかを学び、それらの行動のうち、一人ひとりでは実現できないものをできるようにするために必要な条件を考えるワークショップを行います。例えば、地域で利用できる交通サービスや食べ物の選択肢、製品やサービスの値段、学校や地域社会のルールなどの見直しについて話し合うことで、「一人ひとりの頑張り」ではなく社会と暮らしを変えるために私たちが担う役割を考えます。

※このプログラムは公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）の協力を得て作成した。<https://www.iges.or.jp/jp/projects/1p5deg-lifestyles/region>

<教材スライドの例>



④解決策研究編 自分たちの脱炭素アクションを考える

- ・目 標：家庭や地域で脱炭素化にむけて取り組んでいる実践事例を知り、自分たちができるアクションをグループで考え、話し合い、発表することで、課題解決能力を育み、脱炭素の自分ごと化や行動変容につなげる。
- ・所要時間：6 時限程度
- ・活動内容：高校が立地する自治体や NPO、企業等の協力を得て、暮らしや地域の脱炭素化への取り組みとその課題について、講義やフィールド見学を通して学びます。そして、小グループに分かれ、高校生として自分たちにできるアクションを考え、調査し、とりまとめたアイデアを発表します。先生方には生徒のグループワークのプロセスをサポートする役割を担っていただきます。
- ・参考情報：神奈川県内の協力団体リスト

3 高校生向け脱炭素教育 モデルプログラム

本項では、2023～25 年度に多様な高校で実施したプログラムをもとに、4 時限からなるA コース（①+③）と、10 時限からなるB コース（②+④）を紹介します。

1) 入門編+実践学習編（A コース）

このプログラムは、参加型のワークをベースに取り入れ、生徒が自ら思考しながら気候変動問題の複雑な全体像や脱炭素社会に向けて何が必要かということを学んでいく構成となっています。

＜受講した生徒からの声＞

- ・ミステリーの発表で思いつかなかった内容の繋がりを知れるのが楽しかった
- ・意外と全ての事に繋がっていて、自分と深く関わりのあるものもあることがわかった
- ・今までは全く気にしていなくて使っていたものから二酸化炭素が出ていることを知り少し意識するようになった

時限	学習内容	備考
入門編		
1	オリエンテーション（5 分） ・「ミステリー」で思い浮かべることができることを聞き、不思議なこと、推理小説など、出された意見から、今日は謎とくに挑戦すること、「ミステリー」は正解が一つではないので、みんなで考え、意見を出し合って、自分たちの答えを作ってほしいことを伝える。 ・3 つの異なるナレーションを注意深く聞き、その後 3 つのストーリーの謎を解明するために、配られた 20 数枚のカードを論理的に並べ替えるよう、伝える。 グループワーク：「ミステリー」を解く（45 分） ・3 つのカードを手始めに、各グループに配られた 20 数枚のカードを模造紙の上に並べて、関係あるカードを線でつなぎ、その理由を書き込んでいく。	・4-5 人でグループを作っておく ・ミステリーが気候変動に関するものであると、事前に伝えないようにすると、謎ときの要素が強くなる ・謎解きの手順は示さず、自分たちで考えることを促すが、困っているようならヒントを出してもよい。
2	結果の発表（20 分程度） ・各グループで並べ替えたミステリーカードを他のグループに見せながら、なぜこのような並べ方になったのかを論理的に説明する。 講師によるカードの解説（10 分） ・ミステリーの並べ方の案を提示して、生徒から示されなかったポイントについて解説する。（気候変動問題の原因、影響、対策（緩和と適応）などに整理する）	・1 グループ（発表 3 分+QA2 分）×4 グループ程度 ・講師は、カードの並べ方等の解釈で明らかに異なっているグループ等があれば、補足説明する。

	グループワーク：緩和策を考えよう（10分） ・気候変動問題の特徴や、その防止（緩和策）について、感じたこと、知っていることなどを話し合う 結果の発表（10分） ・各グループから話し合ったことを発表する。まとめることはせず、次回は緩和策について考えることをアナウンスする。 宿題 自宅の電気やガスの使用量などを調べてくる	・最初に発表できなかったグループから発表してもらう
実践学習編		
3	「ミステリー」のふりかえり（10分） ・「ミステリー」で学んだことを出し合う 気候変動問題と自分たちの暮らしとの関係（15分） ・生徒に思いついたことを話してもらい、板書する ・出された意見も取り上げながら、温室効果ガス（GHG）排出の原因になっている電力・工業・輸送・農業などの説明を行い、それらが自分たちの暮らしを支えていることについて解説する ・カーボンフットプリントの説明を行う 自分のカーボンフットプリントを計算しよう（15分） ・じぶんごとプラネットを活用して、自分のカーボンフットプリントを計算してみる https://www.jibungoto-planet.jp/ 日本の平均と比べてみよう（10分） ・各自、全国や横浜市と比べて、どの分野が多い・少ないかを書き留める ・多い・少ない理由を考え、全体で意見を出し合う	・講師は出てきた意見を整理しながら板書する（気候変動の現象、原因、緩和策、適応策など） ・電気やガスの使用量は「わからない」という選択肢が用意されている ・宿題で、カーボンフットプリントを減らす方法をひとつ選び、やってみることもできる
4	カーボンフットプリントを減らす方法を考えよう（15分） ・講師から問いかけ「みなさんが計算したカーボンフットプリントを減らす方法を考えてみよう」 →生徒の回答を黒板上で整理 ・講師がカーボンフットプリントを減らす最大9種類の行動を解説する カーボンフットプリントを減らす行動についてさらに考えてみよう（25分）	・移動・住まい・食・製品・レジャーの分野に整理 ・9つの行動（自動車利用を減らす・住まいのエネルギーを見直す・肉食を減らす・地域のものや旬のものを食べる・ものを長く使うなど、説明スライド参照。

	・グループに分かれて、「もうやっている・今日からできそう」「家族や友人と相談すればできるかもしれない」「難しい・できない」に分類する ・「家族や友人と相談すればできるかもしれない」「難しい・できない」ことを2つ選び、条件や工夫があればやりやすくなるかを考える 発表とまとめ（10分） ・やりやすくなるための条件を発表する ・講師から、脱炭素につながる暮らしに変えていくためには、個人の努力だけでなく、お店や町のあり方が変わることも重要であることを伝える	学校のニーズや生徒の状況に応じて、5～7種類程度に絞ってもよい) ・行動変容に関係する条件：ルール、費用、インフラなど
--	--	--

2) 知識習得編＋解決策研究編（Bコース）

このプログラムは、気候変動問題の影響や原因、脱炭素社会に向けて何が必要かについて、体系だった知識を習得したうえで、実際の社会の中でどのような取り組みが進んでいるのかを知り、自分たちにできることをグループで話し合い発表する構成になっています。

<受講した生徒からの声>

- ・様々な講義を聞くことで、今どのような対策がされているのかや、何が出来ていないのかなどを知ることができた。また身近なこととして捉えることができた
- ・自分たちの町が今どのような状態か、また、どうしていけばいいか自分の意見をちゃんと持つことができた
- ・自分たちにできるアクションを考える機会ってなかなかなく、現実的な視点から環境問題にどう取り組むのかを考えることができて、良かった
- ・自分でプランを考え、それを主張し、プレゼンする力がついたと思う。どれだけ相手の腑に落ちる主張をできるか考える機会を得ることができた

時限	学習内容	備考
知識習得編		
1	オリエンテーション（10分） ・地球温暖化、気候変動問題で知っていることを挙げてみる 講義／動画教材の視聴（15分） 「気候変動問題を知る」 ・気候変動の仕組みや影響、脱炭素社会に向けた国際社会の約束や日本の現状	・ワークシートを配布 ・教材は各スライド（パワーポイント）と動画教材から選択 ・ワークシートに記入しながら視聴する

	・温室効果ガスの大幅な削減と、脱炭素社会への大転換の必要性など 個人ワーク→グループワーク（25分） ・教材の最後のスライドの問について個人で考え、その後、小グループで共有する	・動画は止めながら進めてもよい
2	講義／動画教材の視聴（20分） 「カーボンニュートラル社会を拓く1（エネルギー供給側の対策編）」 ・日本のエネルギーシステム（供給と需要） ・温室効果ガス排出の構造 ・エネルギーの供給側ではどのような取り組みが必要か 個人ワーク→グループワーク（20分） ・教材の最後のスライドの問について個人で考え、その後、小グループで共有する 全体共有、質疑応答（15分） ・各グループから話し合った結果を共有し、必要に応じて講師より補足説明を行う	進め方のポイントは1に同じ
3	講義／動画教材の視聴（20分） 「カーボンニュートラル社会を拓く（エネルギー需要側の対策編）」 ・温室効果ガスの排出を、家庭・オフィス・移動の3つの分野に焦点をあてて学ぶ ・脱炭素社会に向けてどのような取り組みが必要か 個人ワーク→グループワーク（20分） 体共有、質疑応答（10分）	進め方のポイントは1に同じ
4	講義／動画教材の視聴（20分） 「カーボンニュートラル社会を拓く（産業活動における対策編）」 ・産業分野における温室効果ガス削減の取組を学ぶ ・脱炭素社会に向けた体系的な施策と、神奈川県における具体的な施策について学ぶ 個人ワーク→グループワーク（20分） 体共有、質疑応答（10分）	進め方のポイントは1に同じ

解決策研究編		
5～6	外部講師 1 件当たり <u>実践事例の講義</u> (30 分) ・神奈川県下で脱炭素に取り組んでいる事業者や NPO、研究機関などの取組や課題について、従事者から直接お話をうかがう。 ・可能であれば、1 事例 1 時限を使い、2 事例程度学ぶことができるとうい。 <u>質疑応答</u> (20 分) ・よく理解できなかった点だけでなく、より多くの人がそのような活動に参加できるためには何が課題か、どのような工夫をしているかなどについても、質問ができるとうい。	・外部講師及び講義の内容は欄外に示す ・講師に来ていただくだけでなく、工場やお店などの見学を行うことも効果的 ・複数のクラスで実施する場合は、体育館など広いスペースに集まって行う、もしくはクラスごとに異なる講師を招へいするなどの選択肢がある
7～10	<u>自分たちの脱炭素アクションを考える</u> ・これまでの学習成果を活かし、自分たちが実践可能な『脱炭素アクション』を考える。 ・検討のステップとしては、以下の 5 つを提示し、適宜時間割に割り振って行えるとよい。 Step1 テーマ（チャレンジしたい課題）決め Step2 現状・課題の検討 Step3 脱炭素アクションのアイデア出し Step4 アイデアの具体化 Step5 プレゼンテーション準備	
11～12	<u>発表</u> ・自分たちが考えた「脱炭素アクション」を発表する ・質問やフィードバックを受けること、他グループの発表を聞くことなどを通じて、気候変動問題の解決に貢献できる多様な選択肢に気づくとともに、やってみようとする意識を高める	・1 グループ（発表 5 分+QA3 分）×8 グループを 2 時限に分けて実施

【2023～25 年度の外部講師】

協力団体	事例の内容	生徒への課題・問いかけ
地球環境戦略研究機関 (IGES)	1.5℃ライフスタイルの紹介と、市民がチャレンジした結果（簡単な取組、難しい取組、その理由など）の紹介	課題を一つ取り上げ、多くの人が 1.5℃ライフスタイルを実践できるようになるには、社会や経済のルールにどんな変化が必要かを考えよう

環境政策対話研究所 (IDEP)	フランス・ストラスブールにおける脱クルマ社会の取組を学び、まちのありかたを大きく変える方法（市民による熟議）について紹介	日本における同様の事例（富山市、宇都宮市）をひとつ選び、どんな意見があったのか、どんな町が実現したのかレポートしよう
株式会社エクソル	太陽光発電の設置の現状や課題、具体的設置例等について紹介	再エネを増やすために家庭や地域でできることを考えよう
信愛エナジー株式会社 横浜市地球温暖化対策推進協議会	廃食油を回収して行っている事業（発電やインク、飼料などに活用）および SAF や C N 燃料への活用の可能性などについて紹介	回収した油を地域でどう生かせるか、また回収拠点をどう増やせるかなどを考えよう
石井造園株式会社	街路樹の剪定等の造園事業等、緑の保全・創出にかかわる事業および社会貢献活動について紹介	陸の CO ₂ 吸収を増やすためにできること、活動を広めていくためにできることを考えよう
神奈川新聞	神奈川新聞で「減災新聞」を発行している記者から脱炭素に関する問題意識と報道を紹介	神奈川県で脱炭素にむけた取組を調べて「かながわ脱炭素新聞」を作ろう
レンブラントホテル	使い捨てプラスチック削減や食品ロス対策、エコプランなど、レンブラントホテル海老名の SDGs への取り組みについて紹介	
小田急電鉄株式会社	小田急グループの環境戦略と、沿線地域の循環型社会システムづくりをデジタル技術で支援する事業を紹介	脱炭素・循環型社会を可能にするビジネスを考えよう

【2023～24 年度のフィールド見学】

訪問先	活動内容
Fujisawa SST（サステナブル・スマートタウン）	再生可能エネルギーや省エネ、モビリティ、防災、コミュニティづくりなどに取り組むスマートタウンの紹介と見学
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	海老名工場における脱炭素（省エネ）やリサイクルなどへの取り組みの紹介と工場見学

※外部講師、見学先のコーディネートは、IDEP に加え、横浜市地球温暖化対策推進協議会と海老名市の協力をいただきました。

3) 実施校での実践例

i) 実施校でのプログラム例

科目	実施校	時限数	内訳
総合的な探究の時間	希望ヶ丘高校 (1年生、SSH Basic I ミニ課題研究)	10 時限	②知識習得編 4 時限 ④解決策研究編 6 時限
	横浜瀬谷高校 (1年生、秋の特別授業)	12 時限	②知識習得編 4 時限 ④解決策研究編 8 時限
	有馬高校 (1年生、総合探究)	12 時限	①入門編 2 時限 ②知識習得編 3 時限 ④解決策研究編 7 時限
化学	海洋科学高校 (1年生、科学と人間生活)	5 時限	①入門編 2 時限 ③実践学習編 3 時限
	平塚工科高校 (2年生、環境化学)	13 時限	②知識習得編 6 時限 SST 見学 3 時限 ③実践学習編 4 時限
		5 時限	①入門編 3 時限 ③実践学習編 2 時限
	新栄高校 (3年生、化学)	10 時限	②知識習得編 4 時限 ④解決策研究編 6 時限
地理	海老名高校 (2年生、地理総合)	15 時限	①入門編 3 時限 ②知識習得編 2 時限 ④解決策研究編 11 時限
家庭	吉田島高校 (2年生、家庭科「生活探究」)	4 時限	①入門編 2 時限 ③知識習得編 2 時限

<有馬高校のプログラム例>

時限	内容
1	①ミステリー： グループワーク
2	①ミステリー： 発表、解説
3	②オンデマンド教材 1
4	②オンデマンド教材 2
5	②オンデマンド教材 3
6	④企業の取り組み事例学習
7	④グループワーク： 取り組みテーマを決める 「有馬高校生として脱炭素社会をつくるためにやりたいことを考えよう」
8	④グループワーク： 取り組み内容を検討する
9	④グループワーク： SDGs みらい甲子園*PPT 作成
10	④グループワーク： 発表準備
11	④発表： (5 分発表 3 分質疑応答) × 4 グループ
12	④発表： (5 分発表 3 分質疑応答) × 4 グループ

※SDGs みらい甲子園 <https://sdgs.ac/>

気候変動、エネルギー、生物多様性、ジェンダー、水・・・さまざまな地球や人間社会にある問題をどうしたら解決していけるか？高校 1・2 年生がその解決策となる「SDGs アクション」アイデアを発表するコンテスト。

<海老名高校のプログラム例>

時限	内容
1	①ミステリー： グループワーク
2	①ミステリー： グループワーク
3	①ミステリー： 発表
4	②講義：「脱炭素政策の立案にはどのような観点が必要か？」
5	②講義：「気候変動の概要」
6	④グループワーク： 神奈川県・海老名市分野別の脱炭素政策の探究
7	④グループワーク： 課題設定→現状把握、理想像の選定
8	④グループワーク： 国内外の先進事例調べ
9	④グループワーク： 政策立案とスライド構成の検討
10～12	④グループワーク： 政策スライドの作成
13	④発表
	<外部協力者による講評>
14～15	④講評を踏まえ、修正

ii) 解決策研究編のアウトプット例

2025 年度に生徒たちが作成した提案のタイトル（抜粋）を紹介します。

有馬高校

【課題】有馬高校生として脱炭素社会をつくるためにやりたいことを考えよう

- ・牛肉の需要を減らしてメタンガス排出量を減らす！
- ・エコでつながる街プラン リサイクルでポイント⇒地元の SDGs 商品に交換
- ・マイクロプラスチックの発生抑制
- ・日常から節電し、自給自足で賄える電力に抑える など

【発表例】牛肉の需要を減らしてメタンガス排出量を減らす！（抜粋）

海老名高校

【課題】神奈川県または海老名市における脱炭素まちづくりの施策を提案しよう

- ・太陽光発電パネルの各家庭への設置促進策
- ・目指せ！きれいな海老名高校 ―緑化屋根、ヒートポンプ、断熱改修、木造化、植樹
- ・車に頼らないまちづくり ―シェアサイクルの利用促進
- ・市内の交通機関を路面電車、LRT に置き換える
- ・海老名のお米のもみ殻を使ったバイオマス発電
- ・市民参加型省エネ施策 ―市民の省エネ行動見える化アプリ など

【発表例】海老名市でソーラーシェアリング（抜粋）



本プログラムは「令和 7 年度高校生・地域向け脱炭素普及啓発業務」の成果物として一般社団法人環境政策対話研究所（受託事業者）が作成しました。